

# 親子聖書日課

NO.1847 2024.2/18-24

名前

[日]人間は誇り高ぶると、神の言葉も人の忠告も聞けなくなります。自分だけでなく、周りにいる人まで滅ぼします。アマツヤがよい例です。自分が成功している時でも、神の言葉と人の忠告を聞きましよう。その為に、日々、静聴の時が必要です。

[月]神を一心に求めている時、ウジヤ王は栄えますが、自分の力で栄えたと思いがつたとたん、墮落しました。神の助けを得て、祝福されたことを忘れてはいけません。逆境にも打ちひしがれず、大成功にもおごらず、謙遜な信仰を持ちましよう。

[火]人の成功だけではなく、失敗からも学べます。ヨタムも父ウジヤの失敗から、主の御前にへりくだることを学びました。「神の御前をたゆまず歩き続けた」時にこそ、信仰生活は祝福されます。時が良くても悪くても、御言葉に聴従ましよう。

[水]災難の時、神に立ち帰る人が多いの中で、アハズ王は益々主に背きました。自分よりも強そうだと思うと、敵の偶像まで拝むのです。そして主の神殿を閉じ、真の神を締め出します。こんなご都合主義の人は、神の国から締め出されます。

[木]「もう少し暇になってから、奉仕をします」という人はいませんか。私達の信仰は、「今、この時」の生き方が問われています。時間を作っても、奉仕ましよう。主に愛され、選ばれたという自覚があるなら、「今、この時、怠けて」はいられません。

[金]心を込めて悔い改め、主を賛美して喜び祝い、ひざまずいて礼拝し、感謝の献げ物をした時、主との交わりが回復します。「この事が速やかに行われる」ことが大切です。もう少し時間ができてからとためらってはだめです。速やかに行いましよう。

[土]礼拝から遠ざかっている人に、「主に立ち帰れ」とヒゼキヤのように呼び掛けることは大切です。礼拝への参加こそ、主との交わりの第一歩です。私達は主のもとに行くのではなく、帰るのです。放蕩息子のように帰るなら、神の愛を知るでしょう。



	聖書	問題	答え
日	歴代誌下 25:1-28	私の何を聞こうとしなかったのか、神は滅ぼそうと決めましたか。	
月	26:1-23	ウジヤは勢力を増すと共に思い上がってどうなりましたか。	
火	27:1- 28:15	ヨタムは神の御前をどのように歩き続けたのか、勢いを増しましたか。	
水	28:16-27	アハズ王は災難のさ中でもなお主にどうしましたか。	
木	29:1-19	わが子よ、どんな時、怠けてはなりませんか。	
金	29:20-36	この事がどのように行われましたか。	
土	30:1-27	あなたたちがどうするのなら、御顔を背けられることはないですか。	
感想と祈りの課題			







